

第2回 建築設計競技 審査結果

第2回建築設計競技が開催され、日本全国の一般大学・大学院学生、職業能力開発関係施設で学ぶ学生・受講生、工業高校生徒より63作品の応募が寄せられました。このたび、9名の審査委員により作品審査を行いました。「店舗併用住宅」をテーマにしていたことから、店舗とはどうあるべきか、店舗と家族生活との関係、季節や時間との関係、隣地と店舗との関係、設定された地域や自然との関係など、さまざまな観点から考えられたコンセプトに基づき、設計作品が寄せられました。とても魅力的な作品が多いなか、次の作品が審査員に高く評価され、受賞となりました。誠にありがとうございます。

入賞作品につきましては、2019実践教育研究発表会において作品プレゼンテーションおよび表彰があります。また、研究発表会期間中は、上位22作品を会場に展示しますので、ぜひ、優秀作品をご覧ください。

次年度も同じ時期に第3回建築設計競技を開催する予定です。これからの目標の一つにしていただければ幸いです。

(2019年7月16日 審査委員長：和田 浩一)

■ 入賞者

1等 実践教育建築デザイン賞

「ベーカリーライン」

東北文化学園大学 佐藤 智耶



【講評】

バブル期に観光客で賑わっていたが、その時代が過ぎ去って閑散としている秋保温泉街。かつての活気を取り戻したい気持ちが設計のモチベーションとなっている。その活気がなくなっている秋保温泉街で元気のある店が、オハギや総菜、弁当を売っている主婦の店「さいち」である。遠くからも観光客が訪れ賑わっていることに着目し、共生共存でき地域のサードプレイスとなる店舗併用住宅を提案し、温泉街復活の起爆剤になることを提案している。

建物は、駐車場と秋保川に挟まれた傾斜地を利用して、軸となる中央の階段に沿って休憩スペースを配置し、その先に川に面してすがすがしいオープンテラスがある。2階と3階は、住居になっており、秋保川を眺めることができ、レジカウンターを境に機能的に分かれている。

本作品は、実在する店舗に寄り添って共栄しようとしており、とてもリアリティがあり、実際に建築可能であることをうかがわせる。また、単に一戸建ての店舗併用住宅に留まらず、隣接する建物、その先の温泉街の活性化までも視野に入れて設計していることが、最も高く評価された。

■ 審査委員

- | | | |
|--------|-------|---|
| 審査委員長 | 和田 浩一 | 職業能力開発総合大学校 能力開発院 教授 |
| 審査委員 | 星野 政博 | 東北職業能力開発大学校 特任教授・実践教育訓練研究協会 建築・デザイン系部会長 |
| (順序不同) | 江川 嘉幸 | 山形県立産業技術短期大学校 建築環境システム科 教授 |
| | 吾妻 恭臣 | メガソフト株式会社 アカウントマネージャー |
| | 安島 才雄 | 株式会社 総合資格 執行役員/営業部 部長 |
| | 松下 和正 | 株式会社 松下産業 代表取締役社長 |
| | 高橋 純一 | 株式会社ティーエスケー 総務部長 |
| | 飯嶋 元広 | アイディホーム株式会社 生産事業部設計部門長 |
| | 池田 昌隆 | 株式会社インフォマティクス 執行役員 |



(一) 実践教育訓練研究協会 第2回建築設計競技 審査結果

2等 メガソフト株式会社賞

「Direttore Concerto ー小さな森の音楽堂ー」

沖縄職業能力開発大学校 上間 光厘



【講評】

核家族化と共働きによる子育てについての社会問題に対し、職住一体の店舗併用住宅のメリットを生かして対応しようとする提案である。音楽一家の家族条件のもと、生活スタイルを分析し、音楽を通じて地域とつながり、交流を深められるような外部空間を一体とした楽器店の計画になっている。特に、勾配のある敷地条件を上手く取り入れたスキップフロアの室内空間や地域とつながるオープンなイメージを上手く表現したプレゼンテーションが高く評価された。

を通じて地域とつながり、交流を深められるような外部空間を一体とした楽器店の計画になっている。特に、勾配のある敷地条件を上手く取り入れたスキップフロアの室内空間や地域とつながるオープンなイメージを上手く表現したプレゼンテーションが高く評価された。

2等 株式会社総合資格賞

「綾なす家或いは街の碎片」

東京理科大学大学院 楊 翌呈



【講評】

店舗スペースと住宅スペースを分離せず、一体化することで、東京谷中という場所に地域の commonspace を提案している。ショールームとしての店舗活用を提示して、居住者と来客者を積極的に混

在させることで、人間関係の碎片(再編)を創り出そうとしている。図面表現・プレゼンテーションも良い。昔の懐かしさを思い出させる作品となっており、高く評価された。

2等 株式会社ティーエスケー賞

「海を見渡せるオープンカフェ」

東北職業能力開発大学校 本村 舞



【講評】

陸前高田市田谷地区のかさ上げした高台に、海を見渡せるカフェを提案している。建物の店舗はガラス張りとし、海と風と緑と太陽を取り込み、自然を感じ取る効果を高めている。建物の外観は海をイメージし、屋根は波を表現していることが、つらい震災の記憶を乗り越えて、復興に尽力する地域の人々に日々の希望を与えるべく、明るいイメージを提示している。震災復興に対する作者の想いが伝わる作品となっており、高く評価された。

海をイメージし、屋根は波を表現していることが、つらい震災の記憶を乗り越えて、復興に尽力する地域の人々に日々の希望を与えるべく、明るいイメージを提示している。震災復興に対する作者の想いが伝わる作品となっており、高く評価された。

2等 アイディーホーム賞

「共食～よしみを結ぶ～」

九州職業能力開発大学校 川邊 千紗・濱松 清明・山子 夏希・横山 奈央



【講評】

子ども食堂をテーマとして、子どもを中心に地域の人々を繋ぎ、さらには地域交流が深く子育てがしやすい町をPRしようとする提案である。地域で取り組み目標としている持続可能な開発目標を計

画に取り入れ、実現可能なレベルまで緻密に設計されプレゼンテーションしている点が高く評価された。

2等 株式会社松下産業賞

「トオリ・ニワ」

新潟大学大学院 横川 遥哉



【講評】

新潟市中央区西堀通に面する小路を設定し、植物が地域を彩る環境を提案している。町家の通り庭を活用した具体的な提案となっている。平面プランニングはシンプルでスッキリしている。建物の

中の庭と外の庭を想定し、『庭を住宅内に引き込む』という変化のある空間を提案している。店舗と場の設定が良い。植物を育てること生活の一部として取り込み、花の香りが伝わってくる作品となっており、高く評価された。

2等 インフォマティクス賞

「2 → 1House」

職業能力開発総合大学校 村角 菜々子



【講評】

建築的な面白さが感じられる作品である。夫と妻の趣味が違うことを時間軸で検討している。朝・昼・夜での活用を区分することで、ライフスタイルの変化に対応した店舗併用住宅を提案している。住宅内に居住者以外も使用できる通り抜け階段を設定することで、水辺の遊歩道からの動線も確保した。趣味が違う夫婦のライフスタイル、仕事、時間、空間を提案していることが高く評価された。

住宅内に居住者以外も使用できる通り抜け階段を設定することで、水辺の遊歩道からの動線も確保した。趣味が違う夫婦のライフスタイル、仕事、時間、空間を提案していることが高く評価された。

2019 実践教育研究発表会(東京大会) 展示作品 (入賞者以外、順不同)

高木 舜典(職業能力開発総合大学校)、高橋 奏(滋賀職業能力開発短期大学校)、菅野 颯人(東北職業能力開発大学校)、谷藤 博人(東北職業能力開発大学校)、庄司 満瑠(東北職業能力開発大学校)、武田 泰明(職業能力開発総合大学校)、佐々木 夏穂(新潟大学大学院)、知名 かれん・小浜 恵一(沖縄職業能力開発大学校)、仲本 滉輝(沖縄職業能力開発大学校)、下地 沙羅(沖縄職業能力開発大学校)、武田 福太郎・安東 尚(職業能力開発総合大学校)、平澤 大地(関東職業能力開発大学校)、落合 玲奈(関東職業能力開発大学校)、藤井 花音(山形県立産業技術短期大学校)、松野 七海(職業能力開発総合大学校)